

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 人との豊かなつながりの中で、一人一人の自立と社会参加を目指し、たくましく生きる力を育成する

目指す子どもの姿 『笑顔いっぱい ひまわりのみんな』
 ≪とまどちと仲よく支え合う子【共生】≫ ≪明るく、元気な子【挑戦】≫ ≪自己実現に向けて努力する子【自敬】≫

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びに向かう力、人間性等 d 情報活用能力
 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市立ひまわり特別支援学校
 学校長 清山 孝利
 研究主体【研究・研修推進委員会】

前年度			継続性	4月(※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正)			2~3月 年度末評価	
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員評価	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)
【教育課程】 3つの観点を踏まえた教科等を意識したカリキュラムを構築し、個々に応じた指導を行う。	国語、算数(数学)の新たな評価基準作成に向けて、自立活動と教科指導の研修をした。Sスケールと学習指導要領各教科等解説書をもとに、現在の発達段階を理解し、系統立てた自立活動の学習や各教科の学習について考えた。しかし、重点目標にある「3つの観点を踏まえた教科等を意識したカリキュラム構築」までには至っていない。来年度は、神戸女子大学上野先生を招聘した研修を2回持つとともに、チーム担任制で教科指導を進めていき、R9年度からの国語・算数(数学)の観点別評価が実施できるよう研修を進めていく。	B	【教育課程】 3つの観点を踏まえた教科等を意識したカリキュラムを構築し、個々に応じた指導を行う。(a,b,c)	個別の指導計画を作成し、自立活動と教科の関連性を意識した指導を行う。	定型発達の理解のもとで、個々の障害特性を知り、個別の指導計画を充実させる。作成した指導計画に基づき、指導と評価を行う。			
【研修・研究】 子どもの実態に応じた質の高い授業を行うために、日常的に授業の評価・改善を行う。	教員の専門性向上を目指し、研究推進委員会とコーディネーターが協働して計画的に研修を進め、日々の授業改善を図っていった。1学期には実態把握シートを作成し路案による授業公開を全担任が実施、事後研究会には管理職や学部長、コーディネーターも参加し、多角的な視点から授業改善に向けて話し合いをした。2学期以降は、全担任が担当児童生徒の実態に応じた教材教具を開発し、指導案を作成して授業公開を行った。研究授業には年間3回外部講師を招聘し、専門的な知見から助言をいただき授業改善に繋げていった。また、日常的にやり取りの様子を動画にとり、自己評価、他者評価を行うことを積み重ねる中で少しずつ授業改善が図られ、成果も現れてきた。		【研修・研究】 子どもの実態に応じた質の高い授業を行うために、日常的に授業の評価・改善を行う。	日ごろから適切なアセスメントを行うことで、指導・支援を充実させる。	すべての教員が1学期に略案授業、2学期以降に指導案授業を公開し、授業を振り返り、指導改善を行う。また、授業研究会を実施し、外部から評価を受ける。			
【健康の保持】 医療的ケアに関する研修を充実させるとともに、全教職員が個々の児童生徒の状態を共有する。	個々の児童生徒の医療的ケアについて、年度当初に教職員で確認するとともに、通常の学校生活と異なる場合は、その都度、医療的ケアの計画書を作成し、看護職員と当該教師で事前に確認した上で教育活動を行った。また、事後には看護職員と医療的ケアの計画について振り返る機会を持った。校外学習等では、事前に下見を行い、看護職員と教職員が必要な対応について研修した。 ヒヤリハット事案については、報告書の改善や働きかけなどで、全教職員にヒヤリハットの報告が更に定着した。	B	【健康の保持】 個々の児童生徒の医療的ケアの必要性を理解し、教職員と看護職員が連携を取り、医療的ケアに関する認識を深める。必要に応じて事業所等関係諸機関との連携をとる。(d,e)	医療的ケアについての知識理解を深め、適切かつ確実な医療的ケアができるように看護部と連携する。児童生徒の医療的ケアの認識を共有することで、関係諸機関との連携を強化することができる。	医療的ケアサポート会議を定期的に行い、看護職員と教員との共通理解を図る。行事等は、医療的ケアの計画書を基に、看護職員と教員が綿密に打ち合わせを行った上で実施する。必要に応じて、看護部主催の医療的ケア理解研修を開催し、教員の医療的ケアに対する知識を深める。			
【進路】 卒業後の生活を見据えて、個々の児童生徒につけるべき力を検討する。高等部卒業生の追指導を充実させる。	地域社会共生フェスティバルを開催し、12の事業所の説明を聞く場を設けたことで、保護者や児童生徒だけでなく職員も卒業後の進路イメージを具体化する機会とすることができた。新しく参加した事業所とも、その後のつながりを作るきっかけとすることができた。また保護者研修会では、保護者同士が進路に関する情報を共有する中で、新しく知り得たことやさらに考えていくべきことを認識することができたようであり、良い研修となった。教職員研修会では、夏季事業所訪問研修を行い、事業所の様子を直接見たり、話を聞いたりして、児童生徒の指導に生かす情報を得ることができた。	A	【進路】 小学部在学中から学校卒業後の生活をイメージし、それぞれの発達段階で児童生徒につけるべき力を検討する。高等部卒業生の卒業後の相談支援体制を充実させる。(c,e,f)	進路の情報を教職員が理解し、それを保護者と共有する。授業研究(一人一授業)の中で、学習内容、つきたい力が将来の姿に結びつくのかという視点で事後研修を行う。	地域社会共生フェスティバルや進路研修を行い、事業所の特徴や運営方針などを理解するとともに、積極的に新規福祉事業所の開拓を行う。また高等部卒業生の追指導を行い情報の共有を行う。			
【危機管理】 安全確保に向けた緊急対応訓練の実施と具体的なシミュレーションを行う。	4月当初に、各児童生徒の個別の緊急対応のマニュアルを確認し、月1回、内容の確認と手直しを行った。 児童生徒の体調急変を想定したシミュレーションを、各校舎で学期に1回、職員全員で実施した。また、各学部でもシミュレーション訓練を行った。 避難訓練では、突然の災害を想定して、予告なしの訓練を実施し、その後の振り返りで問題点の改善を検討した。 次年度に向けて危機管理のマニュアルを全面改訂した。	B	【危機管理】 学部間で連携を取り、緊急時対応における体制づくりを確立し、定期的なシミュレーション訓練を行う。(a,b,e) 併接校である富士小学校・富士中学校との連携を図る。	災害時や地震発生時、不審者侵入時、体調急変時の救急対応ができる力を身につける。 併接校である富士小学校・富士中学校と合同で避難訓練し、命を守る行動についての理解を深める。	災害時(火災・地震)や急変時(不審者対応)の対応訓練や心肺蘇生法の訓練、緊急時を設定したシミュレーション訓練を年間通じて計画的に行い、あらゆる場面に対応できる力を身につける。その際、併設校と連携を取り、一緒に避難する練習や、別で避難する練習などさまざまなことに対応できるよう、教職員間で共通理解を図る。 災害時や緊急時のマニュアルを定期的に見直すとともに、必要備品等を整備する。警察署や消防署と連携の元、心肺蘇生法の研修や不審者対応訓練などの職員研修を実施する。			
【社会参加】 卒業後の生活を具体的にイメージし、各学部間で将来像の共有化を図り、系統的なキャリア教育を推進する。	教職員全体研修としてキャリア教育研修を行った。各学部1名の児童生徒を抽出し、現在の指導をキャリアの視点から見直し、今後の指導に役立てていく。検討内容を絞り切れない部分もあったが、キャリアの4つの能力を意識した指導をしていくことの重要性を共通理解できた。卒業後の生きる力につなげていくために、現状の学びを捉え返していきながら、より具体的な指導方針を立てていくことをこれからも意識していく必要がある。	B	【社会参加】 卒業後の生活を具体的にイメージし、各学部間で将来像の共有化を図り、系統的なキャリア教育を推進する。(d,e,g)	高等部卒業後を見据え、個別の指導計画の重点目標の見直しを図る。	キャリア教育全体計画から、個々のキャリア教育の計画を作成し、個別の指導計画に反映させる。			

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1~5の5段階評価)の平均値
 ○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
 A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
 C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず